

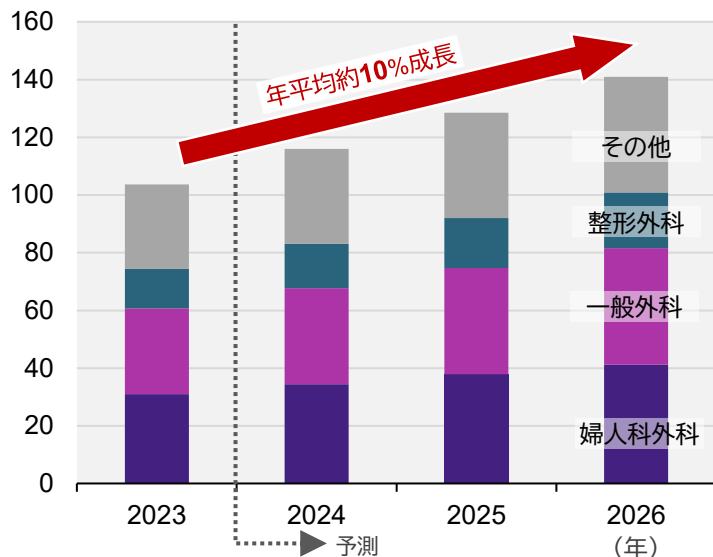
- 手術支援ロボットは、患者の体への負担が少ないことに加え、高精度な手術が遠隔操作で実現できることなどからも、普及し始めています。
- 手術支援ロボットは、従来の手術との比較で切開を最小限に抑えられるため、傷口が小さくなり、感染症リスクも抑えられるほか、正確性が高いといったメリットがあります。
- 一方、機器の購入や消耗品、保守などにかかる費用が高額で、指導者や研修施設の不足といったデメリットはありますが、普及するに伴い、徐々に解消されていくとみられます。

市場拡大が期待される手術支援ロボット市場

- 近年、ロボット技術が従来の手作業に比べて、臨床的なメリットがあると証明され始め、ロボットを使った手術に対する保険適用範囲も拡大していることなどから、手術支援ロボットの需要は高まっていくと期待されます。
- 2026年の市場規模は2023年の約1.3倍となり、年平均約10%の成長が見込まれています。

■ 世界の手術用ロボット市場の推移

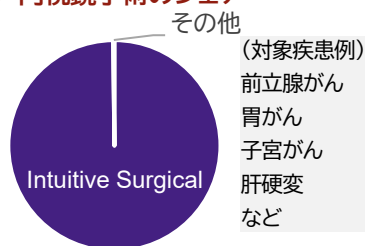
(億米ドル)



出所: Oliver Wyman

領域別手術支援ロボットのトップメーカー

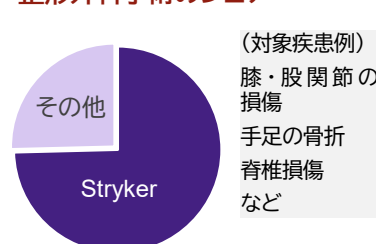
■ 内視鏡手術のシェア



Intuitive Surgical(米): 1995年設立

- 「ダビンチサージカルシステム」および関連製品の販売やサポート、保守のほか、テクノロジートレーニングなどを提供しています。
- ダビンチは、患者に触れることなく、執刀医が患部の立体画像を見ながら、可動域が広く手振れ補正機能を備えた専用鉗子などの手術器具を取り付けた4本のアームで遠隔操作する手術支援ロボットです。
- 2018年(日本は2023年)に、1本のアームに4つの手術器具(従来は1つ)を取り付けるタイプ「ダビンチSPサージカルシステム」を、2025年には操作者の手元に押し引きの感覚をリアルに再現する機種を発売しました。

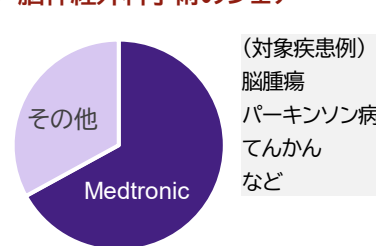
■ 整形外科手術のシェア



Stryker(米): 1941年設立

- 整形外科医のStryker氏が、当時の医療用具への不満から、医療機器の開発に取り組んだことに始まり、医療テクノロジーのリーダーとして発展を続けています。
- 約75の国々に、医療・手術機器や整形外科、脊柱関連分野など、幅広い領域で医療製品やサービスを提供しています。
- フォーチュン誌の「世界で最も称賛される企業」の医療製品・医療機器産業部門に23年連続で選出されました。

■ 脳神経外科手術のシェア



Medtronic(アイルランド): 1949年設立

- 医療用電子機器を修理したことに始まり、電池式ペースメーカーや心臓埋め込み型遠隔モニタリングシステムなどを世界で初めて世に送り出しました。脳神経関連製品では、「Stealth Autoguide」(定位手術支援ロボット)などがあります。
- Stealth Autoguideは、脳腫瘍の手術の場合、治療に必要な電極を挿入する位置と脳深部の測定位置をロボット制御により自動で行うことが可能で、患者の体への負担が少なく、施術翌日から脳波記録が開始できるメリットがあります。

出所: 経済産業省資料より、2020年の世界シェア

※グラフは過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

※公開情報など信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成。情報の正確性・完全性について当社が保証するものではありません。

ページ記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。